

「たこ焼き」と違うでえ！

8月16日は、色々なお寺のお手伝いをさせていただいている私にとって、7月7日から始まった長いお盆のお仕事の最終日。私は朝からラストスパートと気合を入れて、京都市内から大



阪方面とお盆の棚経参りに16軒の檀家さんへと駆け回っています。

この日、京都では「大文字焼き」の日です。

…ちょっと待ってください。言葉は心して使わなければなりません。正式には「五山の送り火」です。観光客がうっかり「大文字焼き」などと口にすれば、「大阪のたこ焼きと一緒にせんといてかぁ！」と京都人から叱られます。お盆に里帰りされた全国の御先祖の御霊が帰って行かれる神聖かつ壮大な行事だからです。

- ① 「大文字」 左京区浄土寺・20時00分点火
 - ② 「妙法」 左京区松ヶ崎・20時05分点火
 - ③ 「舟形」 北区西加茂・20時10分点火
 - ④ 「左大文字」 北区大北山・20時15分点火
 - ⑤ 「鳥居形」 右京区嵯峨鳥居本 20時20分点火
- の順で点火されていきます。5分間隔になったのは去年のことで、以前はもっと間が空いていたように思います。30年ほど前までは、京都大学の校舎がいつも開けっ放しになっていたもので、その屋上から「鳥居形」以外は全部拝むことができたように記憶します。

私は「大文字」のある左京区に9年間生活し

ていましたので、大文字山には毎日のように登ってました。銀閣寺の裏から20分程で登ることができます。「大」の中心部には弘法さまがお祀りしてあるほこら祠があり、朝は大勢の地元のお年寄りが「大文字さん」と親しみを込めてお参りに来ています。私が学生の時、近くの大文字山が悪ふざけをして、4月の夜に大勢の学生がこっそり登り、懐中電灯を持ちその御山の「大」の字の部分に並ばせ全員が一斉に点灯しました。突然夜空に懐中電灯の光の「大」の字が浮かび上がったものだから大騒ぎになりました。彼らは季節外れの「大文字焼き」としゃれ込んだのでしょうが結構大きな事件となり、後で地



元の人からこっぴどく叱られたようです。

それもそのはず。「送り火」を実施するには、地元の方の大変なご苦勞があるのです。現地に登ってみると下から見ているより想像を超える広大な斜面です。「大」の字の横棒部分は80m程あります。そこに石の火床が並び、人の背丈以上の高さに薪を組み上げるわけですから膨大な薪を担ぎ上げなければなりません。1年かけて少しずつ小さなリフトで運びます。

送り火が点火されると、近所の人には「なすび」に丸い穴をくりぬき軒先に吊るし、その穴から送り火を見る習慣があると言っておられました。また翌朝に大文字さんに登り、送り火で出来た炭を拾い、それを軒先に吊るしておくとは厄よけになるそうです。俊徳丸